

社会的意思決定における情動と個人差

春野 雅彦

(玉川大学脳科学研究所 JST/さきがけ)

神経経済学は合理的選好を基盤とする経済理論へのアンチテーゼとしての側面が強く、ヒトの情動が社会行動の選択に及ぼす影響を議論してきた。今回の講演では過去10年に渡る神経経済学の研究で何が明らかにされ、今後の研究はどのような方向に向かうのかを、主に、Dictator game、Ultimatum game、Public goods game といったなじみ深い課題を用いたイメージング研究を題材に議論したい。特に神経経済学の研究が従来の社会科学、脳科学双方の知見をどのように深めうるかに重点を置いて考えたい。